

未来に伝えてほしい  
歴史があります。

1945年8月6日、広島は原子爆弾で焼き尽くされた。  
家族の思い出も、子どもたちの笑い声も。  
戦後、危険と知りながら大きな力と戦った先人たちがいた。  
ある人は震える手で惨状を撮影し、ある人は事実を書き続けた。  
そして命がけで、その記録を守った。  
未来を生きる子どもたちが、笑顔で、幸せであるために  
いま、私たちに何ができるだろう。

# 広島 の記憶

戦前の廣島の街 写真：松本若次・画：福井芳郎・四國五郎・絵葉書

ジョン・ハーシー『HIROSHIMA』

吉田初三郎『HIROSHIMA』

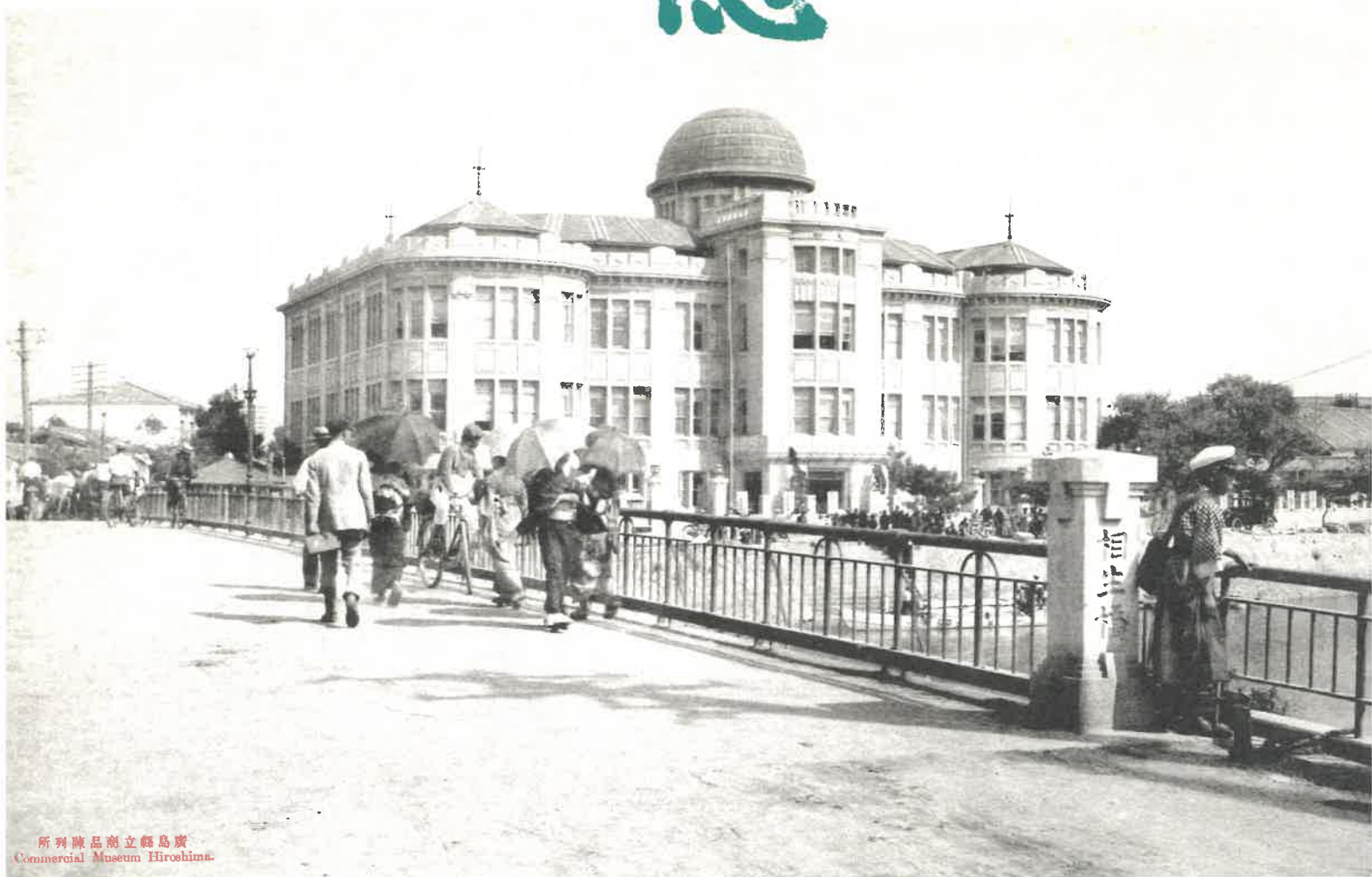
土門拳『ヒロシマ』

2023 6月17日(土)～8月27日(日)

11時～17時(入館は16時30分まで) [休館日] 月曜日(祝日7月17日は開館)

入館料 一般 300円 学生(高校・大学生) 100円 中学生以下無料

主催／公益財団法人泉美術館 中国新聞社 協力／広島平和記念資料館 広島市公文書館 土門拳記念館 NPO法人広島写真保存活用協会  
後援／広島県教育委員会 広島市 広島市教育委員会 中国放送 広島テレビ 広島ホームテレビ テレビ新広島 広島エフエム放送 FMちゅーピー76.6MHz



所附属品商立館島廣  
Commercial Museum Hiroshima

相生橋(東橋)より広島県立商品陳列所(1933年産業奨励館に改称)を望む  
昭和初期の絵葉書(一部デジタル処理) 個人蔵

公益財団法人

泉美術館



昭和初期の産業奨励館を相生橋から望む 撮影:松本若次 (提供:川本静枝)

本展は「戦前の広島」と「占領下のヒロシマ」の2つの視点から、その歴史を考察していきます。

「戦前の広島」では、原爆により多くの記録資料は消失。奇跡的に残った資料から、軍都へと向かう戦前の広島を振り返ります。「占領下のヒロシマ」では、連合国軍の統治下にあった日本で、原爆の被害を伝えることができず、プレスコードという言論統制のなか、主権が回復する1952年まで公表できなかった事実を検証していきます。多くの写真や記事は検閲を受け、没収、廃棄されました。いま目にすることができるのは、記録者たちが守った命がけの記録なのです。



新天地広場と花月新春のにぎわい 画:四國五郎 (提供:遺族)

# 伝えられなかったヒロシマ



スケッチ「昭和20年8月6日午前9時 広島町」画:福井芳郎 (所蔵:広島平和記念資料館)

被爆当日の記録、松重美人の写真、福井芳郎のスケッチ。変わり果てた故郷を記録し続けた佐々木雄一郎。木村伊兵衛、菊池俊吉、大木実らの『LIVING HIROSHIMA』の記録。吉田初三郎が描いた『広島原爆八連図』。被爆12年後に初めて広島を訪れ、いまだ残る原爆症の恐怖を伝えるべく撮影に挑んだ土門拳。中国新聞の報道記事や、海外報道からはキノコ雲の下の惨状を初めて伝えたジョン・ハーシーの報道記事、米国国立公文書館所蔵の目標検討委員会資料など。これらの貴重な記録を、国内外の視点から検証していきます。



昭和20年8月6日午前11時すぎ 御幸橋西詰 撮影:松重美人 (所有:中国新聞社、所蔵:日本写真保存センター)

## 戦前の記録

絵葉書に見る広島  
福井芳郎『がらす横丁』『思い出の広島百景』(複製展示)  
四國五郎『なつかしの廣嶋』(複製展示)  
松本若次の広島記録写真

## 占領下の記録

松重美人『なみだのファインダー』  
福井芳郎 原爆記録スケッチ  
佐々木雄一郎の記録写真  
木村伊兵衛・菊池俊吉・大木実『LIVING HIROSHIMA』  
吉田初三郎『HIROSHIMA』

## 米国の記録

ジョン・ハーシー『HIROSHIMA』  
LIFE誌に見るHIROSHIMA  
目標検討委員会資料 米国国立公文書館所蔵(パネル展示)

## 主権回復後の記録

土門拳『ヒロシマ』・取材ノート(複製展示)

その刻まれた記憶が、未来を生きる子どもたちの「平和への道標」となるために。



- JR山陽本線「新井口」駅より徒歩約15分
- 広島宮島線「草津南」駅より徒歩約10分
- 駐車場無料 エクセル本店駐車場をご利用ください



公益財団法人

## 泉美術館

〒733-0833 広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階  
TEL 082-276-2600 FAX 082-276-2612  
<https://www.izumi-museum.jp/>

詳しくはこちらについては、美術館公式サイトをご覧ください。

『HIROSHIMA』(広島図書1949年)表紙 画:吉田初三郎 (提供:©アソシエイトの資料館 吉田初三郎コレクション)



被爆者同士の結婚 小谷夫妻 撮影:土門拳 (提供:土門拳記念館)